

# 全木連時報

11月25日(金曜日)  
(第572号)〔毎月25日発行〕  
平成17年(2005年)

発行所  
社団法人 **全国木材組合連合会**  
編集長 後藤 隆一  
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215  
URL http://www.zenmoku.jp



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

## 第40回全国木材産業振興大会

### 「築け「木づかい」新時代。目指せ、次世代、木の文化」 石川県立音楽堂に全国から参集



全木連と全木協連が主催する第四十回全国木材産業振興大会は、十月十九日に石川県金沢市の「県立音楽堂・邦楽ホール」で開催された。大会担当は全木連北陸支部、開催地担当は石川県木材組合連合会と石川県木材協同組合連合会。

第一部の大会議事では、式典に続き、意見発表シンポジウム「どう築く木材利用の新時代」が行われ、それを踏まえて、別掲の大会宣言決議を満場一致で決議した。第二部の表彰式では、退任団体長表彰、木材産業功労者表彰、協同組合事業功績者及び優良組合表彰が行われた。この後、郷土芸能が披露され、大会ムードを盛り上げ、懇親会に移り、盛況のうちに閉幕した。

### 第一部 大会議事 大会式典

おめでとーございませう  
栄えの叙勲・褒章 (17年秋)

(木材振興関係のみ掲載、敬称略)

- 旭日小経章 新聞 漣二(静岡)
- 旭日小経章 中谷 弘(和歌山)
- 黄綬褒章 笠木 和雄(愛知)
- 黄綬褒章 尾熊 和人(広島)
- 黄綬褒章 小田切常雄(山梨)
- 黄綬褒章 新間 漣二(静岡)
- 黄綬褒章 平井 孝幸(和歌山)
- 黄綬褒章 尾熊 和人(広島)
- 黄綬褒章 小田切常雄(山梨)

国歌斉唱の後、久保新六福井県

木連会長の開会のことばがあり、続いて全員で物故者に黙祷を捧げた。開催地を代表して向河原辰郎北陸支部長・石川県木連会長から歓迎挨拶があった。次いで、主催者を代表して、大会会長の庄司橙太郎全木連会長が別項の挨拶を行った。

目次

- 一 第四十回全国木材産業振興大会を金沢市で開催 業界人自ら意見発表
- 二 大会宣言を決議し、要請行動でフォローアップ 功労者を表彰
- 三 大会会長挨拶
- 四 木づかい応援団活動始まる 景況調査

来賓祝辞では、農林水産大臣代理「黒木幾雄林野庁次長」、国土交通大臣(代理)「小田昭木造住宅振興室長」、石川県知事(代理)「杉本勇寿副知事」、金沢市長(代理)「須野原雄助役」から木材産業を支援・激励する祝辞が述べられた。

### 意見発表

#### シンポジウム

五名の業界人が  
意見発表  
木材は時代と  
ずれていない

安藤直人東京大学大学院教授を司会に、次の五氏が、それぞれの立場から意見を發表した。

「京都議定書目標達成に向けて」(伊藤木材(株)・伊藤宏一氏)、「木材コーディネーター育成を」(有)三田材木店・三田通廣氏)、「どう築く木材利用の新時代」(資)木村木材・木村秋英氏)、「JAS製材品での差別化戦略について」(株)丸七ヒダ川ウツド・杉山計弘氏)、「次の世代に向

け木材業界への新たな提言(株)ムラモト・村本喜義氏)。

これらの意見について、安藤教授が、それぞれにコメントし、まとめとして「勇気ある意見発表をいただいた。木材は、時代とずれているかというところではない。プレカットなど流れの変わり方が急激だった。それでもかまわない地域、つまり大都市の商流は確実に変わった。二間続きの和室で売ったメーカーも、今は二間の和室はないという。一度釣れた漁場では、二度は釣れないのと同じ。木を使いましようと言いつけることが重要で、環境問題(からの切り口で木材利用を訴えること)は分りにくい、産業としては重要。(木材を使うとき)銘木を使ったら、そこで完結してしまふ。目荒

### 大会宣言決議

なもので、ユーザーが色を塗ったり出来るような可能性をもたせることが商品開発としては重要な。木材は特殊なものではないことを理解したい」と述べた。

次に、大会宣言決議案を小池善英富山県木連会長が提案し、満場一致で決議。さらに、吉条良明全木協連副会長が特別決議を提案し、満場一致で決議された。これを受けて、庄司大会会長が決意表明を行い、業界自らの取組みはもとより、関係方面へも強く要請して、早期実現を図る決意であり、そのための支援、協力をお願いしたい旨を述べて、第一部を終えた。

### 宣言決議

一、消費者と連携し、地球環境と健康に優しい「木づかい運動」を推進しよう  
一、JAS製品・原産地等表示木材の普及推進で、消費者へ確かな情報を届けよう

一、木材産業の活性化に資する住宅減税を拡充しよう  
一、WTO林産物関税を堅持し、違法伐採材の輸入を拒否しよう  
一、地球温暖化防止を図るため、環境税の創設を実現しよう  
一、環境税の徴収の使途に、森林吸収源対策、木材利用の推進を位置づけよう

### 第二部 表彰式

まず、並木瑛夫全木協連会長が挨拶し、次いで、来賓の林野庁長官(代理)黒木幾雄林野庁次長)

から祝辞があった。表彰は、まず、前大会以降の退任団体長に対する表彰があり、全

### 大会の決議事項に基づく要請行動を展開

大会で満場一致で採択された宣言決議と特別決議に基づき、十月二十六日、全木連後藤副会長ほか各都道府県木連でも、地元の関係の関連国会議員に要請行動を行った。アポイントなしの要請活動で

### 第40回全国木材産業振興大会 栄えの受賞者 (敬称略)

#### 前大会以降退任団体長表彰

#### 全木連会長感謝状

山形 富樫憲一 埼玉 木村卓  
富山 石灰甚一 静岡 新聞  
徳島 岡田幸助 高知 門  
田成耕 福岡 坂本喬 長崎 江  
藤豊

#### 全木協連会長感謝状

山形 富樫憲一 埼玉 木村卓  
材商 早川淳 新東京 河野  
義定 原木 江間洋介 富山 石

#### 木材産業功労者表彰

#### 林野庁長官感謝状

北海道 阿部敦彦 宮城 亀山  
征弘 秋田 田口宗良 栃木 山  
口武夫 群馬 御供誠太郎 石川  
吉川正美 岐阜 小栗史司 兵  
庫 宇野金市 広島 山根恒弘

愛媛 稲田保美 高知 岡田秀昭  
大分 大森繁史 宮崎 高嶺清  
二 全市連 上原昭一 フローリ  
ング 田伏恬弘

#### 全木連会長表彰状

北海道 秋元紀幸、山田義信、  
廣瀬英雄 岩手 豊田肇彦、稲村  
吉則 秋田 畑山 誠 山形 佐  
藤信、鈴木嘉明 福島 新田繁  
茨城 大部弘次 栃木 渡辺博司  
群馬 鎌田貴一郎、寺島順一  
千葉 七五三野秀次、植竹政太郎  
山梨 野中敏光 東京 向殿誠  
二、小川勇一、田中直木、五木田  
睦治、村井宏二 新潟 松岡敏宣  
富山 岩河一郎、大鋸谷恒夫  
石川 鍋谷進 福井 林實、古川  
宏、井上勉 長野 浅見昌敏、小  
宮山武 静岡 竹田満雄、小楠輝  
治、駒形昌利、沖元男、榛村保、  
石川太久治 岐阜 今井久喜、杉  
山哲好 愛知 宇治憲康、石原康  
弘、水谷博光、川岸功雄 三重  
尾山晴正、三田通廣 滋賀 奥野  
信昭 大阪 桐野江修策、岡澤利  
治 兵庫 小野一二三 和歌山  
木村壹紀 島根 福島延好 岡山  
水島源治 広島 青原芳一、菅  
野康則、山崎照志 山口 大田保  
徳島 佐々木隆雄 香川 氏部  
直一 愛媛 菊地唯司、森田清数  
門屋一夫 福岡 樋口昭和、椎窓  
勉 熊本 光永初男 大分 吉森  
政和 宮崎 平吉廣年 鹿児島  
今吉光雄 沖縄 富山裕策 全市  
連 名村正治 木材防腐 松本義  
勝 プレカット 大塚祥文 パー



ク堆肥 今田直樹

協同組合事業功績者  
及び優良組合表彰

林野庁長官感謝状

北海道 佐藤教誘 新東京 阿部信義 原木 長谷川健治 木場製材 渡辺雄太郎 富山 田邊嶽之 長野 菅沼盛和 岐阜 丸山輝城 愛知 横井敬司 滋賀 園田昭三 岡山 片山道人 熊本 佐藤仁郎 大分 玖珠木材協同組合 本部 齋藤芳光  
全木協連会長表彰状  
北海道 北村嘉夫、佐々木彰郎 秋田 小笠原高志 福島 和田正光、木村昭太郎 茨城 内山秀也、黒須昇 千葉 平野雅敏、榎

大会会長挨拶

社団法人 全国木材組合連合会 会長 庄司橙太郎



第四十回全国木材産業振興大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本大会を、第二十九回大会以来十一年ぶりにここ金沢市において

戸和子 問屋 亀井吉隆、平岩堅一 材商 天野洋一郎、加藤尚新東京 廣木俊一、橋本尚久 木場製材 小野木隆雄 原木 島根幹夫 富山 原野省三 石川 加藤悦大、増江博夫 福井 齋藤豊美、北西良幸 長野 千村高穂 静岡 中島公望、福島 岐阜 安江紳司、早川貴典 愛知 渡邊佳彦、丹羽照次 三重 野地洋正、岩口政三 和歌山 奥山圭治 島根 協同組合プレテクノしまね 岡山 門田宗治 広島 姉川正史、小林敏秀 山口 錦川流域木材協同組合 徳島 岩佐均 香川 山下美博 高知 北村正一郎 熊本 松本喜一、河津悦雄 大分 岡田邦彦 宮崎 谷巖 鹿児島 岩下清文 沖縄 宮里盛一

す。また、能登は古くからアテ材生産でよく知られた林業地帯であり、今も有力な地場産業として活動を続けており、伝統工芸初め建築用材として生かされています。近年は北洋材を利用した木材産業の発展も目覚ましく北洋材製品の一大生産地となって参りました。今後、アテ材はじめ県産材の生産振興と、北洋材製品の供給基地としてますます発展するものと期待しております。

材業界はじめ地域密着型産業はまだまだ景気回復の実感が湧いてこない状況であります。特に、新築住宅着工数は今のところ前年をやや上回るペースで推移しているものの、木造率の低下、木造着工面積の低下などのため木材需要は減少傾向を見せており、従って材価も依然として弱含みに推移しております。これは木材業界のみならず、地域の森林・林業にも深刻な影響を与えています。そこで、今我々に求められていることは、木材産業が新しい時代の要求に応えられる産業に脱皮し、木の文化の再構築を目指した自己改革に取り組んでいくことあります。併せて、木材利用の推進、需要の拡大のためには、環境、健康に優しい自然素材であるという木材固有の特性に加えて、住宅部材として品質性能の優れた、施工性の高い木材製品を、品質・規格、産地などを明確に表示して安定的に供給できる体制を整備することであり、また消費者の目線に立つて、健康、環境に優しい、木づかい運動を積極的に推進していくことも必要であります。

最後に、本大会の開催にあたり、全面的にご支援、ご協力いただいた全木連北陸支部並びに石川県木連の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。私のご挨拶といたします。

景況調査 = 全木協

10月分集計表 ( )内は実数

【流通部門】 モニター数92 回答数58 回収率63%

当月の状況			
販売量	増加34% (20)	変わらず54% (31)	減少12% (7)
仕入量	増加26% (15)	変わらず52% (30)	減少22% (13)
販売価格	上昇7% (4)	変わらず90% (52)	下降3% (2)
仕入価格	上昇29% (17)	変わらず71% (41)	下降0% (0)

来月の見通し			
販売量	増加29% (17)	変わらず57% (33)	減少14% (8)
仕入量	増加17% (10)	変わらず67% (38)	減少16% (9)
販売価格	上昇21% (12)	変わらず79% (46)	下降0% (0)
仕入価格	上昇33% (19)	変わらず65% (38)	下降2% (1)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	42% (21)	56% (28)	2% (1)
南洋材	22% (10)	76% (35)	2% (1)
北洋材	17% (8)	79% (36)	4% (2)
国産材	16% (8)	74% (37)	10% (5)
建材	11% (5)	87% (38)	2% (1)

乾燥材取引の頻度	増加 44% (24)	変わらず 56% (31)	減少 0% (0)
----------	----------------	------------------	--------------

【製造部門】 モニター数98 回答数64 回収率65%

当月の状況			
販売量	増加33% (21)	変わらず47% (30)	減少20% (13)
仕入量	増加23% (15)	変わらず52% (33)	減少25% (16)
販売価格	上昇9% (6)	変わらず85% (54)	下降6% (4)
仕入価格	上昇35% (24)	変わらず60% (37)	下降5% (3)

来月の見通し			
販売量	増加19% (12)	変わらず67% (43)	減少14% (9)
仕入量	増加17% (11)	変わらず69% (44)	減少14% (9)
販売価格	上昇5% (3)	変わらず94% (60)	下降1% (1)
仕入価格	上昇20% (13)	変わらず71% (45)	下降9% (6)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	18% (5)	78% (21)	4% (1)
南洋材	22% (4)	72% (13)	6% (1)
北洋材	37% (10)	63% (17)	0% (0)
国産材	12% (5)	71% (30)	17% (7)

プレカットの動向			
受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 37% (7)	1ヵ月 58% (11)	1ヵ月以上 5% (1)



木づかい応援団

プロ野球マスターズリーグ開幕

全木連からも観戦

今年から「木づかい応援団」に委嘱された、プロ野球マスターズリーグの開幕戦が、十一月三日に東京ドームで行われ、全木連事務局からも後藤副会長以下が観戦し、応援した。

開幕戦には二万五千人の観衆が集まったが、バックスクリーンのオーロラビジョンには、試合前、試合中に数度、「みんなで止めよう温暖化 マスターズリーグは木づかい応援団」という大きな文字が映し出された。この文字は、プロ野球マスターズリーグは木づかい応援団として、温暖化対策の推進を応援している。

マスターズリーグは、来年一月二十二日まで全国で二十試合が予定されている。リーグでは「木づかい運動係」(03 3668 256 牧野、金井)を設けて、チケットの申し込みに対応している。

かい応援団として国産材の利用推進を応援しています。」という大きなメッセージが掲示されて(写真)観衆の注目を集めた。

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート!

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みにスピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階  
TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595  
URL <http://www.affcf.com/forestry>